

令和5年度 学校評価アンケート結果

刈谷市立小高原小学校

1 学校評価アンケート調査対象及び実施期間

児童、保護者、教職員

令和5年12月中旬実施

2 学校評価アンケート結果の考察

保護者にはスマートフォンを用いたWEBアンケートによる回答をお願いした。WEBアンケートに回答できない場合は従来の紙面回答としたが、ほとんどの家庭がWEBアンケートによる回答に協力いただけた。児童アンケートも、今年度は、全学級でタブレットでの回答を行うことができた。

(1) よかった項目

- ・児童、保護者とも、全ての項目において「そう思う」「まあまあそう思う」と答えている割合が半数を大きく上回っている。
- ・授業においては、授業がわかりやすいと答えた児童は80%を超えており、理解しながら授業を楽しんでいる子どもの様子が見られる。
- ・「クラスは協力しあっていて楽しい」については児童が82%、「子どもたちはクラスの間関係に満足し、楽しく学校生活を送っている」については保護者が72%、教職員が70%と高い割合を示している。「クラスの協力・人間関係」に対しても肯定的な回答が多い。小高原小学校の経営方針でもある「あたたかい学校」に対しても、児童が82%、保護者67%、教職員80%と高い割合を示しており、児童、保護者、教職員がともに肯定的に捉え、学校やクラスが多くの子どもにとって好ましい場所となっていると考える。

(2) 改善すべき項目

- ・「決まりを守って生活」していると児童が76%、保護者は70%が答えている反面、教職員が57%とそれほど高くないことから、約束やルールを守って学校生活を送ることの大切さを実感できるような心の育成に力を入れていく必要がある。
- ・児童の「友達の意見を聞いたり、自分の考えを発表したりすることが好きか」は、昨年度の58%より上がっているものの63%と低い。教職員においては「話し合いにより思考を深める授業を工夫している」と答えているのも67%である。これは、近年の感染症対策として話し合い隊形での授業が思うようにできなかったことも影響しているが、今後、より一層ICTを活用したり、ステージアップの発問を工夫したりして子どもたちが互いの意見をしっかりと聞き、自信をもって主体的に話し合い、学びが深まるように授業づくりをしていく必要がある。
- ・「いじめや問題行動に早期解決に努めている」と80%の教職員が答え、78%の児童が「先生はいじめや困ったときにすぐに解決してくれる」と答えているが、保護者は56%と、教職員や児童と評価に大きな開きがあった。今後は、今以上に子ども一人一人に寄りそいながら適切な支援を続けるとともに、学校での児童の様子や、指導状況について、確実に家庭に報告し、理解を得ていく必要がある。そして、学校での生活指導上の情報を職員同士で共有することを強化したり、必要に応じてケース会議を開いたりしていく。
- ・児童の「自分にはよいところがあると思うか」には昨年度は72%、今年度は73%とほぼ横ばいである。また、80%の職員が「よいところを認める支援に努めている」と答えているが、「子どもたちは自分のよさを自覚している」と答えた教職員は54%に止まっている。職員は、子どものよさを認めるよう努めているものの、それが子どもの自己肯定感の高まりにうまく反映されていないことが考えられる。そのため、子どものよさを的確に見取り、継続してそのよさを認め伸ばす指導を心がけ、子どもに自信をもたせていく必要がある。

(3) 学校運営協議会委員より

- ・引き続き学校の目指す経営方針「日本一あたたかい学校」が、教職員や児童、保護者全員に浸透するように、道徳的な部分を深めていってほしい。
- ・いじめの早期解決について、学校と保護者の捉えに差があることへの対応としては、相談しやすい環境や周りで気付く環境を整えていく必要がある。
- ・子どもたちの中には、積極的に気持ちを表現できる子もいれば、できない子もいる。登校時に元気にあいさつできる子もいれば、元気なさそうに下を向いて歩いている子もいる。気になる子には、地域の方々からも、その都度声をかけていくことが大切ではないか。